

ユリノキ 風の便り 80

2025 (令和7) /6/1.
八千代・ゆりのき台 辻 秀幸

カマキリ (昆虫綱 網翅上目 カマキリ目 カマキリ科)

奇妙なムシ。顔をこちらに向けて首を傾げる。そんな昆虫はほかに思い浮かばない。

卵のう

オオカマキリ

2022/12/27.
船橋「浜町公園」のフジ

三つあった内の一つを手元で観察。春になって子どもが出てこない。切り開いたら、中はカラッカラの乾燥状態に見えた。そのままにして、翌日見ると小さなカマキリがわんさと動き回っていた。それが右下の写真。



幼虫 (ニフ。若虫)



→ オオカマキリ

上写真の卵のうを切り開いたら団
体で出てきた若虫。ナイフを使った
ことも一因だろうか、五体不満足の
ものが少なからずいた。 2023/4/5.

← ハラビロカマキリ

お尻 (腹部) をそらしてご挨拶。

2019/6/17. 船橋「浜町公園」



抜け殻 No.47 参照



蝶 (完全変態) の脱皮は劇的で、よく紹介されているが、カマキリ (不完全変態) については見た記憶がない。

変態の時は無防備で、危険だと思うが、それなりに繁栄しているので危険低減の方法があるのだろう。他の生きものに栄養を得る機会を提供していることにもなっているのだろう。

飼育しているとメスが交尾中や交尾後にオスを食べる様子が観察されるという。エサと認識するのだろうと考えられている。オスは命がけだ。繁殖目的達成後のオスはпой捨て、ではなくてメスが栄養源として有効利用、ということか。無駄のない生存戦略なのだろうが、カマキリに生まれなくてよかった、とホモサピエンスのオスとしてはしみじみ思う。

← ハラビロカマキリ?

2020/8/21. 船橋「浜町公園」

見分け方

記録できたのは オオカマキリ、コカマキリ、ハラビロカマキリ の3種。図鑑などを参考に見分け方をまとめた。

後ろ羽 (写真は実際の色を正確に反映していないのでごめんなさい)

オオカマキリ

紫っぽい
2019/9/22.
船橋「浜町公園」



コカマキリ

黒っぽい白い線が
たくさんある

2023/10/23.
八千代・ゆりのき台 5. 路上



ハラビロカマキリ

すけすけ

2021/9/28.
船橋「浜町公園」



体つき



オオカマキリ ↑

細長い。全体に緑色で、褐色の部分がある。閉じた羽は
紫っぽい。体長 70-95 ミリ 2022/8/26. 船橋「浜町公園」

コカマキリ →

3種の中で一番小さい。褐色型がほとんど。体長 40-65 ミリ
2023/10/23. 八千代・ゆりのき台 5. 路上

ハラビロカマキリ →

腹部横に広い。緑色型が多い。体長 45-75 ミリ

2023/10/17. 八千代・ゆりのき台 5. 「サニーハウス」駐車場



前脚 (かま) に黒い帯がある

コカマキリ 2023/10/23.
八千代・ゆりのき台 5 路上



前羽に白い点がある

ハラビロカマキリ

2021/9/28. 船橋「浜町公園」

